

## リレーエッセイ

## 剣道と私

常任理事 中島 治彦



私は中学から剣道を始め、今年で四十五年になります。学校剣道から

スタートしたこともあり、素早く打つよりも大きく真つ直ぐ打つことが大切だと教わってきました。田舎の中学・高校と、良い戦績を残すことなく、ただただ真つ直ぐな剣道をしてきました。高校の恩師から、大学で剣道することを勧められました。が、県立の工業高校だったため勉強が苦手で、現役合格ができません。一浪して何とか進学することができました。

大学四年間は、体育学部武道学科ということもあり、剣道を専門的に、真剣に学ぶことができ、今の自分が出来上がったのだと思っています。先生方に指導していただき、正しい剣道が身に付いたので感謝の気持ちでいっぱいです。また、多くの先輩方に厳しくも優しく稽古をつけていただき、何事にも負けない強い精神力と忍耐力を養うことができました。

した。

さて、大学を卒業してから教員として、横浜の私学に三年間、前任校である伊勢原の私学に二十七年間お世話になり、現在は八王子市にある大学で教鞭をとらせて頂いています。大学を卒業してからの指導歴は三十五年になります。

横浜の道場では就学前の園児を見たくもありましたが、小学生や中学生、高校生を指導させていたとき、今は主に大学生を指導しています。この三十五年間は本当にいろいろなことがあり、多くのドラマも生まれました。自分にしかできない剣道を、うまく子供たちに教えることはとても難しいことですが、それぞれにあった指導をしてきたつもりです。決して指導力があるとは思いませんが、地道に正しい剣道を教えてきました。試合に勝つためだけの剣道を教えたくありませんが、勝つ喜びを味わわせることも大切だ

と思います。学生には、真つ直ぐな剣道をしていけば良い結果が付いてくると指導しています。しかし、現実はその甘くはありません。

現在勤務している大学では、剣道部員が百三十名います。不思議に思われる方が多いでしょうが、法学部だけの大学としてはまさかの大所帯です。男子百五名、女子二十五名、その内、五十名ぐらいが大学から剣道を始めた学生です。大学の特色で、警察官合格率日本一という実績を持つっており、全国から警察官を目指して入学してくる学生が多く、剣道の段を取得して警察官になりたいと考えているため、初心者が多いのです。柔道部も六十名ぐらいの学生がいます。高校も剣道をしてきて継続している学生は昇段を目指し、文武両道に励んでいます。また、全日本学生大会出場を目標に日々稽古している学生もいますのでそれぞれの目標に応じた指導をするように心掛けています。

初心者は七月に一級取得、十一月には初段を取得させ、二年次には二段が取得できるように指導しています。例年全員が昇段しています。そして、四年の秋には参段取得ができるように頑張らせます。特に四年生では就職活動と並行して稽古しなけ

ればならないので大変ですが、自覚のある学生はうまく調整しています。中には、とても大学から始めたとは思えないほど成長する学生もいます。これからも継続してほしいものです。

最後に、私は正しい剣道を後世に伝える使命があると考え、これからも自分がお手本となるように稽古に励みたいと思っています。どれだけことができるかわかりませんが、剣道を通して相手に感動を与えられるようになれば幸いです。今まで自分を支えてくれたすべての皆様に感謝し、その恩返しができるように今後も生活していきたいです。この度、このような機会をいただき感謝しています。

ありがとうございます。



現在、勤務する日本文化大学で初心者  
を指導する筆者